

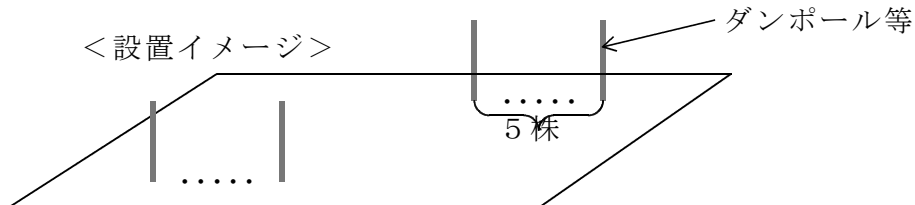
平成28年度「新之助」先行生産ほ場・生育調査方法

【調査日】

6/10、7/11、幼穂形成期（7/20頃）、出穂期（8/中旬）、成熟期（9/下旬）

【生育調査か所の設定方法】

- 1筆あたりの調査か所→2か所
- 調査株の選定→欠株がなく、生育が平均的な連続した5株(5株×2か所=10株を調査)
 ※ 選定した株を継続的に調査します。ダンポール等により目印としてください。



【調査方法】

調査項目	測定単位	標本数	調査方法など
1 本田生育 [6月10日,7月11日] (1)茎数 (2)葉色	1本/株 SPAD値	10株 10株	○ 測定した10株の平均値。 ○ 葉色は、ミノルタ葉緑素計による。 測定部位は最上位完全展開葉の下の葉、出穂後は止葉の葉先から1/3の場所で、葉身中央の筋を避けて測定。
2 幼穂形成期 [7月20日頃] (1)幼穂形成期 (2)茎数 (3)葉色	月日 1本/株 SPAD値	3株 10株 10株	○ 幼穂形成期の確認方法 7月20日頃を目安に、その前後で1日おきを実施。生育が平均的な株の最長茎をカッター等で割り、幼穂長が平均1mmとなった日を幼穂形成期とし、その日に調査株の茎数と葉色を調査。 ※幼穂長の確認は、調査株以外の株で実施してください。
3 出穂期 [8月中旬] (1)出穂期 (2)葉色	月日 SPAD値	ほ場観察 10株	○ 出穂期の確認方法 出穂すると思われる全茎数の40~50%が出穂した日。
4 成熟期 [9月下旬] (1)成熟期 (2)穂長 (3)穂数 (4)倒伏程度 (5)病虫害発生状況	月日 1cm 1本/株 1%	ほ場観察 10株 10株 ほ場観察 ほ場観察	○ 黄化割合が90%になった時期。 ○ 調査株の地際から最長穂の穂首までの長さを測定。 ○ 調査株の遅れ穂、被害穂を除いた穂数を調査。 ○ 次項の図（倒伏程度の考え方）参照。 ○ ほ場全体を見回り達観調査。

調査項目	測定単位	標本数	調査方法など
5 収量・品質 [9月下旬]			
(1)実収量	1 kg	—	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製品重量及びくず米重量を記載。 ○ 農産物検査結果を記載。2等以下の場合は主な格落ち要因も記載。 ○ 農産物検査時の整粒歩合を記載（又は米粒判別器を使用）。 ○ 成分分析計による分析値。
(2)検査等級	等級	—	
(3)整粒歩合	0.1%	(1,000粒 3回)	
(4)タンパク含有率	0.1% (玄米水分15%)	3回	

図 倒伏程度の考え方

程 度	倒伏角度
0 (無)	0°
1 (稀)	0° ~ 20°
2 (少)	20° ~ 40°
3 (中)	40° ~ 60°
4 (多)	60° ~ 80°
5 (甚)	80° ~ 90°

